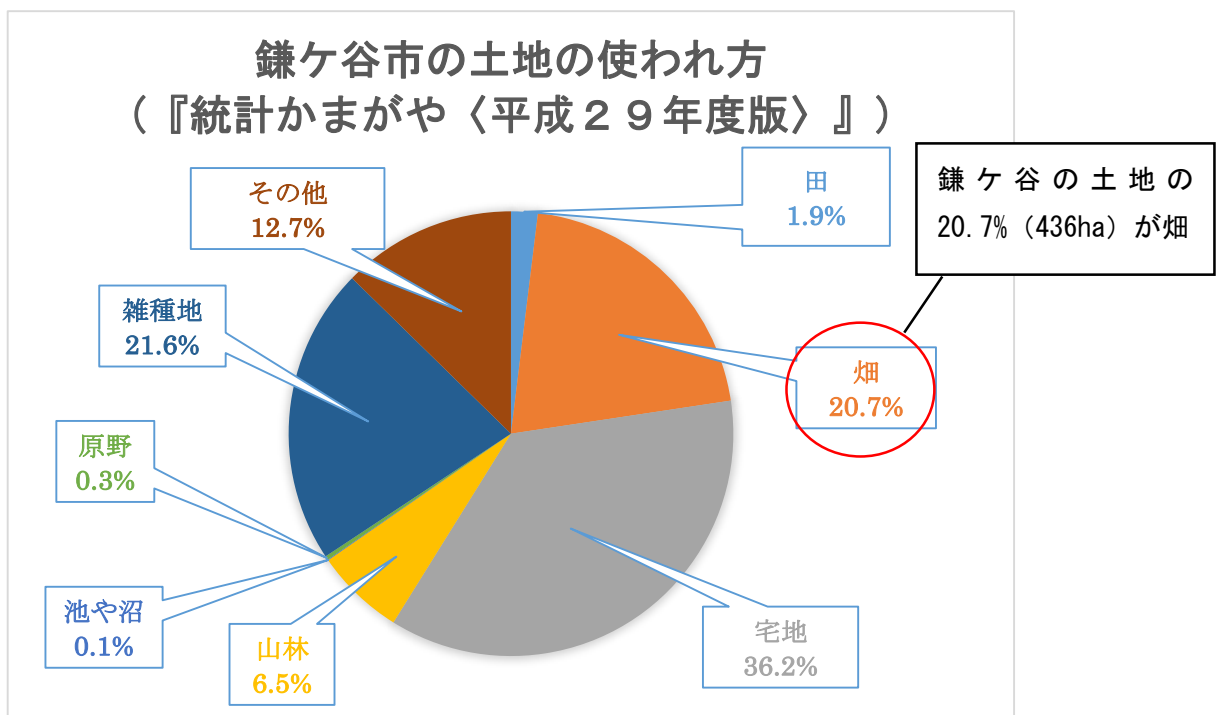


鎌ヶ谷の梨について

1 鎌ヶ谷と梨

鎌ヶ谷市は、千葉県の北西部に位置し、都心から25km圏内とアクセスが良いことから、首都近郊の住宅都市として発展してきました。昭和46年9月1日に人口44,760人を擁して県下24番目の市となりましたが、その後着実な人口増加により平成8年には10万人、平成30年8月には11万人を突破しました。

こうした発展の中でありながら、鎌ヶ谷市は豊かな農地や緑の環境を持ち、特に梨については、全国一の生産量を誇る千葉県でも有数の産地として知られています。



鎌ヶ谷市の総面積は2,108haあり、そのうち畑の割合は20.7% (約436ha) です。市内にある梨畑は約177haであることから、梨が占める割合は多いと言えます。また、総農家数295戸のうち、177戸が梨を栽培しており、実に60%の農家が梨を作っていることとなります(“平成27年農林業センサス”より)。

2 鎌ヶ谷の梨の歴史

(1) 日本の梨栽培の起源

日本梨は古い栽培の歴史を持ち、記録に残っている最も古いものは『日本書紀』の持統天皇の章（693年）で、梨の栽培を奨励する記事が見られます。また、『草木育種』（文化15年）には「梨は甲斐（今の山梨県）・相模（今の神奈川県）・下総（今の千葉県北部）で多く作っている」と記されていることから、千葉県では200年ほど前から梨が作られていると言えます。



（「江戸名所図会」(天保5年〈1834〉)）

(2) 東葛飾の梨栽培の始まり

江戸時代、八幡（現在の市川市八幡）の川上善六という人が野菜に代わる作

物はないかと日本中を歩き、美濃国大垣（現在の岐阜県大垣市）のあたりで梨の栽培を見て関心を持ち、その土が八幡の土に似ていたので八幡でもできるだろうと考え、梨の枝を譲り受け持ち帰りました。今の八幡神社のあたりにその枝を植えたところ3年後に数個の梨の実をつけ、さらに数年後この梨を『美濃なし』と名づけて江戸に出荷したところ評判がよかったので近所の農家にもすすめ八幡で梨の栽培が盛んになり『八幡なし』と呼ばれるようになったといえます。

その後、江戸時代末期から明治にかけて、八幡、市川、柏、八柱、中山、鎌ヶ谷、東葛飾等、南部葛飾郡一带の旧町村がその主要産地として数えられ、今日の東葛梨の隆盛を見るとともに千葉県を梨栽培を発展させました。

（3）なぜ梨栽培が盛んになったか

八幡地方の気候及び土壌条件が梨栽培に非常に適していました。また大消費地である江戸に近く、出荷の便がよかつたうえ、当時江戸近郊に梨を生産する地方が他になく高値で売れたため、この地方で梨栽培が盛んになったと考えられています。



（初富で使用されていた梨籠）

（4）鎌ヶ谷の梨栽培

鎌ヶ谷市域は、江戸時代の末期に隣接する八幡梨の影響により、数戸の農家が親戚筋を通して栽培を始めたと言われる、歴史の古い産地です。

戦後、梨の新植が盛んに行われ、市全域に広がり栽培面積も急増しました。

鎌ヶ谷市の特徴として直売の占める割合が高く、梨のシーズンになると市内ではたくさんの直売所が開かれます。また、鉄道4線が通り、道路網も発達していることから、早くから観光農園が行われており、人気を博しています。現在、梨狩りを楽しめる観光農園は、市内に7か所あります。

3 日本梨の成分効果

日本梨には、良質な食物繊維、カリウム、ソルビトールが豊富で、ナトリウムはほとんど含まれていません。そのため、ガン、心臓病、脳卒中、高血圧、慢性非特異的肺疾患などの生活習慣病や便秘に有効であるばかりでなく、100g当たり43kcalとカロリーが低く、ボリュームが大きいのでダイエットにも効果があります。そのため旬の時期に、日本梨を毎日200グラム以上摂取することが健康の維持・増進に有効です。

(第55回全国ナシ研究大会講演「ナシの機能性と健康」より)

4 鎌ヶ谷市で作られている主な品種

(1) 幸水 (収穫時期：8月上旬から8月中旬)



現在もっとも多く作られている品種で、旧農林省園芸試験場(現果樹試験場)において、昭和16年(1941)、菊水に早生幸蔵を交配した実生個体から選抜され、昭和34年に幸水と命名され発表されました。産地に導入されてからは、玉のび、玉ぞろいが悪く、長十郎、二十世紀、などに比べ、栽培しにくい品種とされましたが、研究の結果、幸水の特성에対応した栽培管理技術

が確立され、安定して大玉を生産することが可能になりました。

昭和40年ころから消費者によりやく真価が知られ人気が急上昇しました。果実はへん円で、中間色に属し、成熟すると黄褐色を呈します。肉質は柔らかく、多汁で甘味多く、酸味、渋味はほとんどなく品質は優れています。

(2) 豊水 (収穫時期：8月下旬から9月中旬)



昭和29年(1954)、旧農林省園芸試験場(現果樹試験場)において、リー14(菊水×八雲)を母とし、八雲を父として交配した実生から選抜され、昭和47年豊水と命名し発表されていましたが、近年のDNA研究結果によると「幸水」と「平塚1号」の可能性が高いと言われています。

果実は大果で、甘味と酸味が適度に芳醇な食味と、口中でとけるような肉質であり、最高級の品質です。しかし、小果では十分な品質が得られないので、400g以上の大きさにしなければなりません。

当市においても、幸水に並ぶ主要品種となっています。

(3) 新高 (9月中旬から)



昭和2年（1927）、神奈川県農業試験場が新潟県の品種「天の川」と高知県の品種「今村秋」を交配育成してできた品種です。名前は、新潟県の「新」、高知県の「高」をとって「新高」と命名されました。

旬は9月から10月と晩成の梨で果実が大きく、1個の重さが1キログラム以上になり、日持ちのする梨です。当市においても晩なし（おくなし）として栽培されています。

（4）あきづき（9月上旬から）



国立果樹研究所が（新高×豊水）×幸水を交配育成した品質優良な中晩生の赤梨です。1個の重さは約500gとなり柔らかく緻密で果汁は多いです。甘味は「豊水」よりやや甘く酸味は弱いです。樹勢は強く、また豊水のような密症状がないため、「豊水」に変わる品種として増殖が進められています。

（5）かおり（9月上旬から9月中旬）



新興と幸水の交雑実生で、名前のおり特有の香りを持ちます。青梨で1個の重さが500gから1kgとなり、かおりが良くさっぱりとした甘さが好まれます。

□他にも様々な種類の梨が作られています。

・新興（収穫時期：10月中旬から11月上旬）



甘みと酸味のバランスが良い。

・にっこり（収穫時期：10月上旬から11月中旬）



柔らかくでジューシー、酸味が少ない。

- ・王秋（収穫時期：10月下旬から）



果肉は白く、ち密で貯蔵性が高い。

5 梨栽培の主な作業

- ・受粉



梨は4月初旬から中旬にかけて、畑一面じゅうたんのように、可憐な白い花を咲かせます。本来は昆虫や風などを介して自然交配しますが、自分と同じ種類の梨の花粉ではうまく受粉できないという特徴があります。

そのため、人の手によって受粉の手助けをします。花が咲く頃、つぼみを摘み、花粉を採取し、1週間程度かけて花1つずつに綿棒を使い違う種類の梨に花粉付けを行います。これは良質な梨を作るために大変重要な作業です。この作業がうまくできなければ花が果実として成長しません。

・摘果



実がなり始めたら4月下旬から6月下旬にかけて摘果作業を行います。摘果作業とは、果実の数の数を制限し、個々の梨により良く栄養が行き渡るようにする作業のことをいいます。

はじめの1ヶ月程度は、1つの花そうにできた7つ前後の実を、位置や品質の良いもの、軸の長いものなどから良い実を1個から2個残して他は切り落とします。これを予備摘果といいます。

その後、成長を見ながら栄養の行き渡り具合と最終的な収穫量のバランスが最適となるよう、本摘果により調整を行います。

・袋かけ



6月中旬から2週間程度かけて袋をかける作業を行います。8月から9月に収穫できる梨の袋がけは不要ですが、9月下旬以降に収穫する一部の梨については、病害虫から果実を守るために袋がけが必要になります。

梨を直接手で持つと取れてしまうので、軸をもって袋が果実にあたらないようにそっと入れていき、口の部分を針金で縛ります。熟練した人でも大体30分で100個程度の梨にしか袋をかけることができません。軸が短かったり、木の枝が邪魔をしたり、袋かけはとても苦勞する作業です。

・収穫



8月上旬から、いよいよ待ちに待った収穫が始まります。緑がかった実が、黄色に変わってきたら収穫の合図です。梨を作る人にとって、一年の苦勞が報われる瞬間です。

大きさ、果皮の色などで熟期を判断し、下がった果実を斜め上に持ち上げるようにしながら収穫します。翌年の花芽を痛めないように慎重に作業を行います。収穫された梨は、収穫用のコンテナに収め、果樹園から運びだし、選果作業後、出荷・販売されます。

・剪定



1 1月中旬から3月初旬までは剪定の作業を行います。剪定作業とは、古い枝、余分な枝をノコギリやハサミ等で切り取り、良質な果実を収穫できるよう、新しい枝に更新する作業です。特に幸水では古くなった枝には良質な花芽が着きにくく、着葉数も少なくなります。だいたい3年を目途に枝を更新します。

また、この頃に次年度の枝を取りやすくするために予備枝を残しておきます。そして糖度の高い美味しい梨になるように、十分な日光が当たり残った枝同士が重ならないよう枝を曲げ果樹棚にひもで縛っていきます。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
主 な 作 業	摘 蕾	人 口 受 粉	摘 果		収 穫 ・ 出 荷			落 葉 処 理 ・ 園 内 清 掃				
											整 枝 ・ 剪 定	
							苗 木 の 準 備 ・ 園 地 の 準 備	植 え 付 け				
				薬 剤 散 布						元 肥		

6 梨生産者団体のご紹介

○鎌ヶ谷市梨業組合

市内梨農家162戸が加入（平成30年3月31日現在）する、鎌ヶ谷市最大の団体です。梨の生産量全国トップを誇る千葉県。その主要産地である鎌ヶ谷にて、皆様においしい梨を届けるため、日々精進しています。市内最新技術の研究はもちろん、各園自慢の梨によるコンテストの開催や、近年はワイン等の加工品の開発、札幌・沖縄への販路拡大や、海外への輸出にも取り組んでいます。

問合せ先：JAとうかつ中央鎌ヶ谷支店 047-443-4010

○鎌ヶ谷市観光農業組合

鎌ヶ谷特産の梨をはじめ、ぶどう、桃、ブルーベリーを生産する農家が加盟し、直売による新鮮なフルーツの販売や大切な人への産地直送を行っています。また、皆さんの手で収穫し、もぎたてをその場で食べる味覚狩り体験ができる農園もあります。「フルーツシティ鎌ヶ谷」で楽しい1日をお過ごしください。

問合せ先：鎌ヶ谷市観光農業組合事務局（鎌ヶ谷市役所内）

047-445-1141

HP：<http://www.kamagayasikankounougyoukumiai.info>



○鎌ヶ谷ふるさと梨の会

昭和60年（1985）に4戸の梨農家で発足。現在は24戸の梨農家により、伝統を守りつつ最高の栽培技術を用いて、おいしい梨の生産に励んでいます。産地そのままの味を楽しんでいただけるよう、もぎたて完熟梨の全国発送を行っていますので、是非お問い合わせください。

また、「かまたんのふるさと梨」のインターネット販売にも取り組んでいます。

問合せ先：鎌ヶ谷ふるさと梨の会事務局 047-446-4174

HP：<http://www.nashinokai.com>

7 その他の梨に関するいろいろ

・根郷梨通り

鎌ケ谷市の南部に位置する中沢の根郷（ねごう）地区。ここは市内でも有数の梨の栽培が盛んな地域で、道路沿いには梨の直売所が多く点在しています。この根郷地区をもっとPRしようと、平成27年より通りの愛称を「根郷梨通り」とし、12軒の梨農家さんたちが共同で看板を設置しました。このように、農家さん自身による地域を盛り上げる取り組みも行われています。



・梨の共進会

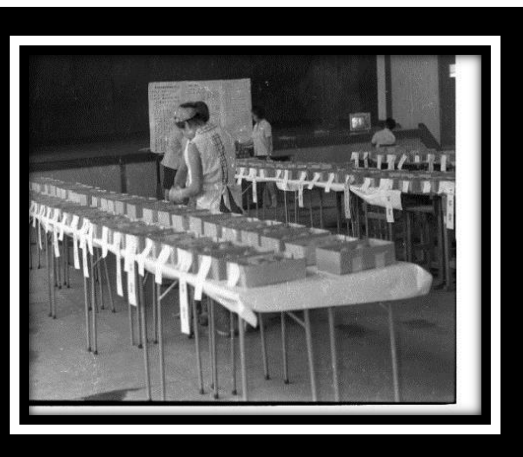
鎌ケ谷市では、梨のシーズンになると、市役所で梨の共進会が開催されます。品種は幸水（8月頃）と豊水（9月頃）を隔年で交互に実施しており、毎年市内の梨農家さんが選りすぐりの梨を持ち寄って競い合います。

共進会は二日間に渡って実施されます。一日目に審査会を行い、鎌ケ谷市長賞をはじめ、優れた梨に賞を付け、展示も行われます。また、二日目には出品された梨の即売も行われ、梨農家さん自慢の梨を求めて例年多くの来場者で賑わいます。

共進会今昔



(平成29年)



(昭和39年前後)

●参考文献

- ・「千葉県の日本なし」 関東農政局千葉統計情報事務所
- ・「果樹農業発達史」 財団法人農林統計協会
- ・「房総農業史」 青史社
- ・「千葉県果樹のあゆみ」 千葉県果樹園芸組合連合会

●写真提供 鎌ヶ谷市郷土資料館